

「音楽表現」に対する保育学生の意識変化について

—— リトミックが及ぼす1年生への影響を中心に ——

前田 知子*

Awareness Change through Music Expression
in Students of Early Childhood Education and Care
—Impact of Eurhythmics on 1st Year Students

by
Tomoko Maeda

要旨

本稿は、平成29（2017）年度後期における保育学科1年音楽表現Ⅰの授業を中心とした実践報告である。本学では平成27（2015）年度から音楽担当教員が一新したと同時にピアノの授業（音楽Ⅰ・Ⅲ）、弾き歌いの授業（音楽Ⅱ）の内容が変更され、筆者は平成29（2017）年度から「音楽表現Ⅰ」の授業を担当している。担当授業では幼児教育において必須ともいえる「リトミック」を土台とし、実践学習を通じて音楽の導入・基礎を身に付けることを目標としている。本稿では、受講する保育学科1年生が将来保育現場で自信を持って音楽表現ができるための音楽表現の技術向上の土台となる意識変化を考察した。今回の調査をもとに、今後も向上心を持って活動できる保育者を養成できる授業展開を目標としたい。

キーワード：身体運動、即時反応表現、短期間実践、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、人間教育

1 はじめに —「リトミック」を取り入れる活動と目的について—

起稿にあたり「リトミック」について述べておきたい。リトミックは、スイスの作曲家・音楽教育者として著名なエミール・ジャック＝ダルクローズ（1865-1950）が1900年初頭、一人ひとりの感性を磨き、心身の調和的な発達を促すために提唱した音楽教育法である¹⁾。

* 本学非常勤講師

音楽のセンスを高めることは勿論、音楽を通してコミュニケーションを身に付けることができること、音楽を聴くことで音楽の変化に気づき、その変化を動きで応答し（身体で表現）、音楽の意味内容が理解できるようになること、音楽を音楽だけで完結するものではなく、運動的・言語的に結び付け、多方面から表現する意欲を育てることを目標としている。

つまりリトミックは、音楽的能力を高めるだけでなく、筋肉運動感覚を鍛え、イメージ、バランス、リラックスなどさまざまな感覚を体験し、想像性や創造性を育み、他の芸術や生活、学習においても表現力を発揮し、子どもたちの能力を目覚めさせることができる人間教育なのである。従って、保育学生の音楽的成長だけでなく「豊かな感性」や保育者としての資質を高めるためにリトミックの導入が意義深いことが既に指摘されている²⁾。また、他の保育者養成校においても、リトミックの活用について実践的な授業や考察が行われている³⁾。

上記をふまえ、筆者が担当する授業では、リトミックを含む、いわゆる音楽だけではなく身体運動を取り入れ、日常生活の中で身近なものや言葉をつかって表現する方法・制作・発表を行ってきた。さらに子どもの成長過程を理解しながら、自らも音楽表現を行い、成長過程を実感できるように活動することを目標としている。従って、ピアノや歌唱だけでなく幅広い音楽表現に対する意欲・感興が、学生の喜びや自信へ繋がることを重視している。

2 下関短期大学における保育学科1年の音楽授業科目について

本学の保育学科1年生の音楽授業科目は5科目ある（表1）。ピアノ演奏の初心者も多いため前期は音楽の基礎づくり、リトミックを主体とした「音楽表現Ⅰ」の授業を後期に行っている。その他1年後期の開講は「音楽Ⅲ」（ピアノ実技）、「音楽Ⅱ」（弾き歌い）である。

表1 保育学科1年音楽授業科目

（*が筆者の担当授業）

主な授業内容	保育学科1年前期科目名	1年後期科目名
音楽基礎（楽典）	音楽基礎演習	
ピアノ実技	音楽Ⅰ*	音楽Ⅲ*
弾き歌い		音楽Ⅱ*
リトミック等		音楽表現Ⅰ*

3 音楽表現に対する意識変化について

1年生後期に行う「音楽表現Ⅰ」の授業形態は、身体活動を取り入れ即時反応表現を身に付ける実践型授業である。この授業では、音楽表現の向上だけでなく、「音楽が得意（好き）な人は上得意（大好き）に、音楽が苦手（嫌い）な人は好きに」という意識変化を目標の一つとしている。筆者は、15回の授業のうち最初から9回目で音楽表現に対する苦手意識をとるこ

とが重要であると考えている。そこで1回目の授業で出席した29名（1名欠席）と9回目の授業においてほぼ同内容の音楽についてのアンケートを実施した（図1）。アンケート集計結果については後述する（4・1）。

3・1 後期「音楽表現Ⅰ」授業の実践概要

先に述べた通り本授業では、15回の授業の内、最初の9回は音楽への興味・関心を高めること、保育現場の音楽表現を踏まえ、リトミック音楽の基礎的能力を身に付けていくことを主眼として授業を進めている。1回目から9回目までの実践概要は以下の通りである（表2）。

表2 平成29年度（後期）「音楽表現Ⅰ」実践概要

回数	授業日	テーマ	内容
1	9月20日	幼児と音楽	リトミックについて、アンケート実施
2	9月27日	リトミックの基本①	ビート（拍）
3	10月4日	リトミックの基本②	ダイナミクスとテンポ
4	10月11日	リトミックの基本③	拍子
5	10月18日	歌唱・手遊び・制作①	歌唱、手遊び、野菜の絵を作成
6	10月25日	歌唱・手遊び・制作②	仕上げ、披露（発表練習）
7	11月1日	リトミックの基本④	リズム・パターン
8	11月8日	リトミックの基本⑤	フレーズ
9	11月15日	基本のまとめ	アンケート実施

2回目からはリトミック音楽の基礎的学力を身に付けることを目標にリトミックの基本「ビート（拍）」「ダイナミクスとテンポ」「拍子」「リズム・パターン」「フレーズ」を身体運動で表現する実践型を取り入れた。リトミックの指導に関する活動内容について、中根（2015）⁴⁾は、「即時反応」「模倣活動」「リズム」「拍子」「フレーズ」「音」の6つに分類して報告していることを参考に分類した上で、更に筆者は「即時反応」を「ビート」と「ダイナミクス」の2つに分けて授業活動の内容を表に示した（表3）。これは、音楽表現における基礎的技術を組み合わせた活動であるため、「譜読み」（音符とリズムを理解し鍵盤上で確認しながら弾く作業）の技術向上も期待できると筆者は考えた。

なお、7回目と9回目に実践した「基本のリズム」は、以下の8種類である。1「ティ・ティ・ティ」（♪♪♪：八分音符4つ）、2「ター・ティ・ティ」（♪♪♪：四分音符1つ・八分音符2つ）、3「ティ・ター・ティ」（♪♪♪：八分音符1つ・四分音符1つ・八分音符1つ）、4「ティ・ティ・ター」（♪♪♪：八分音符2つ・四分音符1つ）、5「ターイ・ティ」（♪♪♪：付点四分音符1つ・八分音符1つ）、6「ティ・ターイ」（♪♪♪：八分音符1つ・付点四分音符1つ）、7「ター・ター」（♪♪♪：四分音符2つ）、8「ターアン」（♪♪♪：二分音符1つ）。これは、2拍を八分音符に分割してリズムを取ることを目的としている⁵⁾。

表3 授業で行った活動の内容

回数 授業日	即時反応		テンポ (模倣活動)	リズム・パターン	拍子	フレーズ	その他
	ビート(拍)	ダイナミクス					
1回目 9/20							アンケート実施
2回目 9/27	言葉や音楽に合わせて手拍子、足踏みをする。						
3回目 10/4	言葉を並べて唱えながら手拍子をする。	音楽の強弱に合わせて身体表現をする。 言葉の頭にアクセントをつけ手拍子をする。	音楽に合わせて手拍子をする。 動物の模倣活動(動物のイメージで足踏み、身体表現をする)。				
4回目 10/11					2人組になり音楽に合わせて単純拍子の手合わせをする。 拍子を言葉に当てはめ発声しながら手拍子をする。 ボールを突いて拍子をとる。		
5回目 10/18	音楽に合わせて手拍子をする。	＜やさいのうた＞歌唱・身体表現 歌詞の内容に合わせて言葉、擬態語にアクセントをつける。		音楽に合わせて野菜の模倣運動、擬態語の手遊びをする。	拍子に合わせて内容にあった歌唱をする。		野菜をB4用紙に描き色塗りをする。野菜の形に切り裏にマグネットを貼る。
6回目 10/25		歌いながら強弱で表現をする。	＜やさいのうた＞発表練習 野菜のイメージに合った手遊びを取り入れ身体表現をする。		拍子に合わせて野菜パネルをボードに貼りテンポよく歌唱する。		野菜のパネルを仕上げる。
7回目 11/1				8つの基本パターンをリズム唱、手拍子、ステップをする。 言葉をリズムに当てはめて手拍子をする。			
8回目 11/8	歌唱しながら手拍子、足踏みをする。	歌いながら強弱で表現をする。	音楽に合わせて手拍子、足踏みをする。	基本パターンを歌いながら感じとる。	拍子に合わせて手拍子、足踏みをする。	正方形にロープを並べた傍でボールを持って歌唱しながら角から角まで歩く。フレーズが変わる際ボールを渡す。 フレーズの変わり目で向きを変える。	学生がピアノの弾き歌いをする。
9回目 11/15				第7回で行った8つの基本パターンをリズム唱、手拍子、ステップで復習する。			アンケート実施

4 「音楽表現 I」の1回目と9回目授業による意識変化アンケートについて

平成29年9月20日「音楽表現 I」授業初回時に、保育学科1年を対象とした音楽表現に関するアンケート調査を実施した(図1)。このアンケートは、学生が「どの表現が好きか」「得意あるいは不得意に感じているのか」を学生自身が認識し、教員が把握するための意識調査である。また、合計8回のリトミック授業で、どの位、音楽表現に対する意識が変化するかを知るためにリトミックの基本授業が終了する11月15日9回目にも調査をすることとした。9回目のアンケートの内容については、1回目の設問に加えて、達成感に関する新たな質問を4項目増やした(図2、問⑬⑭⑮⑯)。

下関短期大学 保育学科 平成29年度 音楽表現 I	
学籍番号:	氏名:
以下の質問について○でお答えください。	
① 「リトミック」のことを知っていますか。	・知っている ・聞いたことはある ・知らない
② 音楽は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
③ 体育(運動)は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
④ 美術(図工)は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑤ ピアノを弾くことは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑥ 弾き歌いは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑦ 譜読みは早いですか。	・早い ・普通 ・遅い
⑧ 歌うことは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑨ 人前で歌う事は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑩ 好きな曲、音楽はありますか。	・ある ・ない
⑪ 趣味、得意なスポーツはありますか。	・ある ・ない
⑫ 身体を使ってリズムがとれますか。	・とれる ・普通 ・とれない

図1 初回授業時に配布したアンケート用紙

下関短期大学 保育学科 平成29年度 音楽表現 I	
学籍番号:	氏名:
以下の質問について○でお答えください。	
① 「リトミック」のことを知っていますか。	・知っている ・聞いたことはある ・知らない
② 音楽は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
③ 体育(運動)は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
④ 美術(図工)は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑤ ピアノを弾くことは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑥ 弾き歌いは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑦ 譜読みは早いですか。	・早い ・普通 ・遅い
⑧ 歌うことは好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑨ 人前で歌う事は好きですか。	・好き ・普通 ・嫌い
⑩ 好きな曲、音楽はありますか。	・ある ・ない
⑪ 趣味、得意なスポーツはありますか。	・ある ・ない
⑫ 身体を使ってリズムがとれますか。	・とれる ・普通 ・とれない
⑬ 1回目の授業より音楽が好きになりましたか。	・はい ・普通 ・いいえ
⑭ 2か月授業を受けて自分自身の成長を感じる事ができましたか。	・はい ・分らない ・いいえ
⑮ この授業を通してピアノや歌などに意欲がわきましたか。	・はい ・普通 ・いいえ
⑯ 保育者になるためにこの授業は大切だと感じましたか。	・はい ・普通 ・いいえ
(理由を書いてください)	

図2 9回目授業時に配布したアンケート用紙

4・1 保育学科1年を対象とした「音楽表現 I」に関するアンケート調査の結果と考察

1回目授業(図1)と9回目授業(図2)に行ったアンケートの①から⑫の設問について、5つのカテゴリー「リトミックに直接関わる分野」「リトミックに関連する分野」「リトミックの音楽領域に関する分野」「リトミックの表現力に関わる分野」「リトミックの基本に関する分野」に分類し(表4)、分析を行った(図3-1～図7-2)。なお、9回目授業で初回の設問に加えた4項目(⑬～⑯)は「達成感に関する分野」として分類し(表4)、分析した(図8-1～図8-4)。

表4 「音楽表現Ⅰ」1回目と9回目授業によるアンケート調査における設問分類表

カテゴリー	1回目と9回目授業に実施した設問内容
リトミックに直接関わる分野	① リトミックを知っていますか
	② 音楽は好きですか
リトミックに関連する分野	③ 体育（運動）は好きですか
	④ 美術（図工）は好きですか
リトミックの音楽領域に関する分野	⑤ ピアノを弾くことは好きですか
	⑥ 弾き歌いは好きですか
	⑦ 譜読みは早いですか
	⑧ 歌うことは好きですか
	⑨ 人前で歌うことは好きですか
リトミックの表現力に関わる分野	⑩ 好きな曲、音楽はありますか
	⑪ 趣味、得意なスポーツはありますか
リトミックの基本に関する分野	⑫ 身体を使ってリズムがとれますか
	⑬ 1回目の授業より音楽が好きになりましたか
	⑭ 2か月授業を受けて自分の成長を感じることができましたか
	⑮ この授業を通してピアノや歌などに意欲がわきましたか
達成感に関する分野 (9回目に加えた4項目)	⑯ 保育者になるためにこの授業は大切だと感じましたか
	⑰

4・2 アンケート「リトミックに直接関わる分野」の結果と分析

「リトミックを知っていますか」という設問に対して「知っている」は17%→97%に増加した(図3-1、3-2)。これは1回目授業で「聞いたことはある」と答えた63%の学生と「知らない」と答えた17%の学生が全員「知っている」に移行した結果であろう。

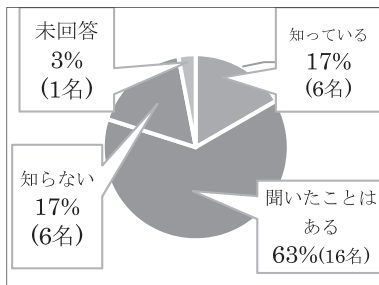


図3-1 ①リトミックの認知度(1回目)

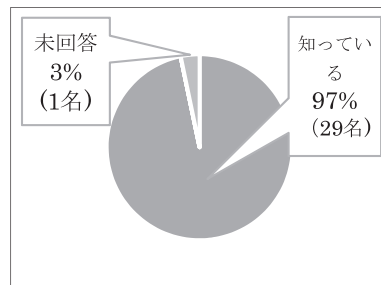


図3-2 ①リトミックの認知度(9回目)

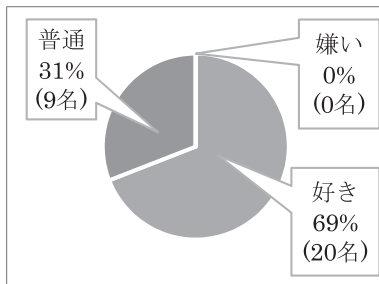


図3-3 ②音楽は好きか(1回目)

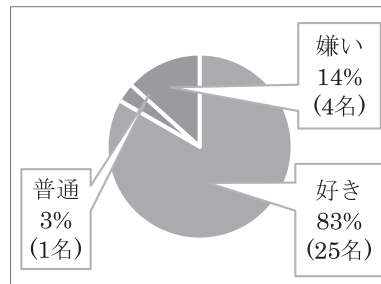


図3-4 ②音楽は好きか(9回目)

初回時アンケートの認知度17%は、保育に関心を持つ学生においてもリトミックに対する認知度の低さが読み取れる。

リズムに合わせた身体表現としてダンス（バレエ・ヒップホップ・日本舞踊など）が挙げられるが、周知の通り、「中学校学習指導要領」（平成20年3月告示）でダンスが必修化されて以降、教育現場での実践が広く浸透している。ダンスは、リトミックと関連が深いにも関わらず、認知度が低いため、授業においてリトミックを知ることで音楽表現・身体表現の幅を広げる必要があると分析できる。

「音楽は好きですか」（図3-3、3-4）という設問に対して、「好き」は69%→83%に増加した一方で、「嫌い」は0%→14%に増加している。これは、「普通」と答えた学生が「好き」と「嫌い」に14%ずつ分裂したことがうかがえる。リトミックの基本的な表現を実践した授業体験を通して、自分にとってリトミックが得意あるいは苦手という意識を明確化させたことが考えられる。筆者は、学生に対して2回目の授業時では「ビート」のみの表現を実践してもらったが、回を重ねるにつれて「ダイナミクス」「テンポ」といった表現項目を増加させる授業を展開した（表3）。そのため、音楽を感じながら同時に身体表現を行わねばならない難易度が増した結果、難しさを実感した学生が「嫌い」になった可能性がある。

中根（2015）⁶⁾は、保育者（社会人）を対象にリトミック研修を行った結果、「ある程度表現や音楽的技術が得意な保育者は、初めはやさしい内容の研修において、自己評価値が高いため、研修を重ねて行っても自己評価値はあまり向上しなかったと言える。反対に内容の難易度が高くなるにつれ、少し難しさを覚え自己評価値が下がった保育者もいる」として、最初の自己評価値を考慮に入れる必要性を指摘している。今回の保育学生に対するアンケートでは、リトミックそのものを十分に知らなかった学生が約8割を占めるため、自己評価値を設定できなかったことが考えられる。しかし、授業（リトミックの実践的学習）の結果、保育者における研修と同様に「難易度が高くなるにつれて自己評価値が下がった」ことが確認できよう。

リトミックだけでなく音楽表現という視点からみて「リトミックを知っている」「音楽が好き」という割合の増加は本授業の成果といえる。その一方で、「嫌い」に変化する学生の存在を意識しながら、難易度を落として成功体験を増やすことを視野に入れて授業改善を行う必要があるだろう。

4・3 アンケート「リトミックに関連する分野」の結果と分析

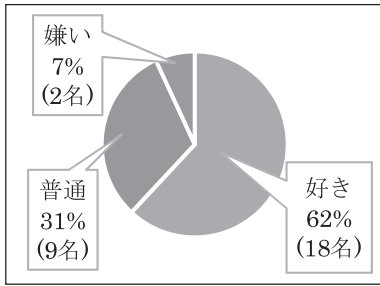


図 4-1 ③体育(運動)は好きか(1回目)

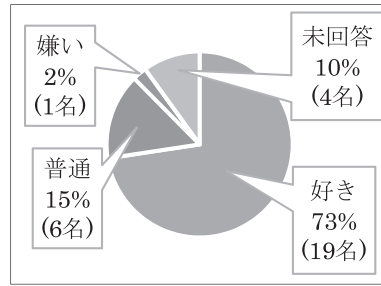


図 4-2 ③体育(運動)は好きですか(9回目)

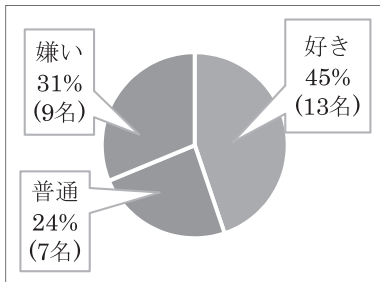


図 4-3 ④美術(図工)は好きか(1回目)

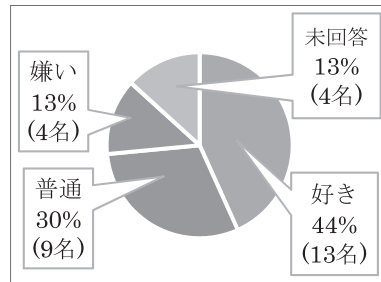


図 4-4 ④美術(図工)は好きか(9回目)

「体育(運動)は好きですか」(図 4-1、4-2)、「美術(図工)は好きですか」(図 4-3、4-4)という2つは、リトミックに関連が深い身体表現・造形表現への嗜好の変化を尋ねた質問である。双方、「好き」の割合は横這い状態だが、「未回答」の増加がみられることに注目したい(体育:0%→10%、美術:0%→13%)。それは2回目授業以降で、身体運動を行う際「朝から面倒くさい」「眠たい」と言って動こうとしない学生が、毎回3~4名存在したためである。筆者の担当授業が1限目(9時~10時30分)であることにもちなんだ発言・行動と思われるが、運動をすることを面倒な作業と捉えている様子がかがえる。また、5回目の授業において「やさいのうた」にちなんだ媒体制作(B4用紙に描画・色塗り作業)を行ったが(表 3)、「作るのが面倒くさい」「色塗りが面倒くさい」と言い、余白が多く雑な色塗りを行った者もいた。つまり「好き」「嫌い」といった嗜好だけでなく、作業に対する苦手意識や嫌悪感があると考えられる。これらの学生に対しては、目的を明確化する(自分本位ではなく子ども達に喜んでもらうことが保育者としての責務であること)をより強く伝える必要があると考えられる。その理由として、媒体作成において、丁寧に仕上げ、自ら進んでラミネーターをかけて何度も使えるように工夫した学生もいた。工夫した学生の理由は「実習に使いたいから」ということであった。このように理由や目的を明確化して表現や作業を行うことが重要と考えられる。

4・4 アンケート「リトックの音楽領域に関する分野」の結果と分析

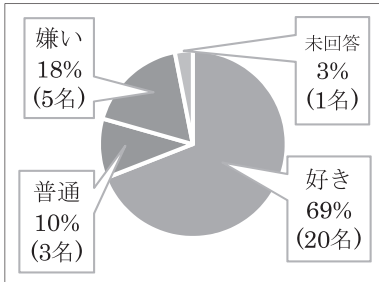


図 5-1 ⑤ピアノ演奏は好きか(1回目)

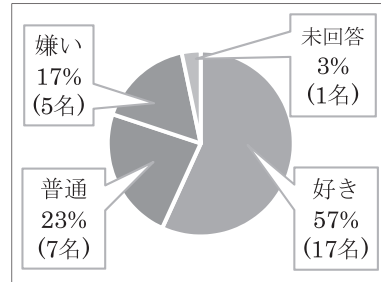


図 5-2 ⑤ピアノ演奏は好きか(9回目)

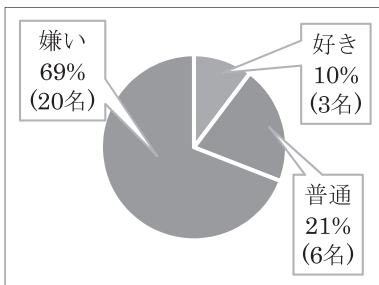


図 5-3 ⑥弾き歌いは好きか(1回目)

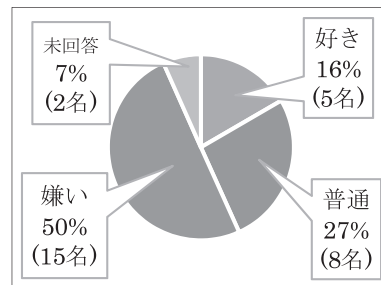


図 5-4 ⑥弾き歌いは好きか(9回目)

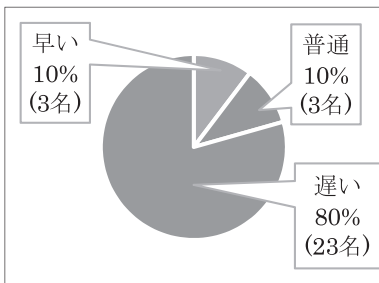


図 5-5 ⑦譜読みは早い(1回目)

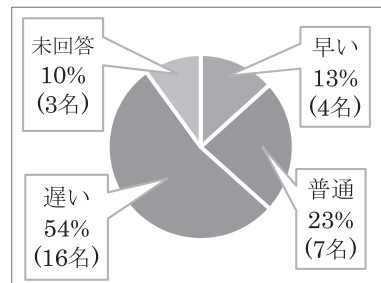


図 5-6 ⑦譜読みは早い(9回目)

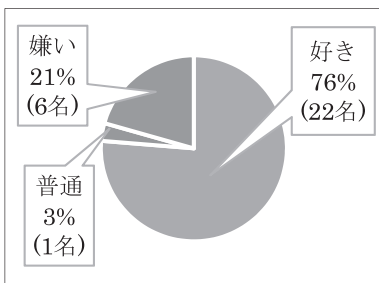


図 5-7 ⑧歌唱は好きか(1回目)

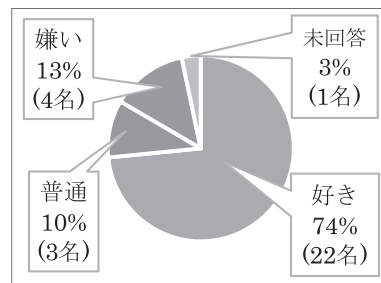


図 5-8 ⑧歌唱は好きか(9回目)

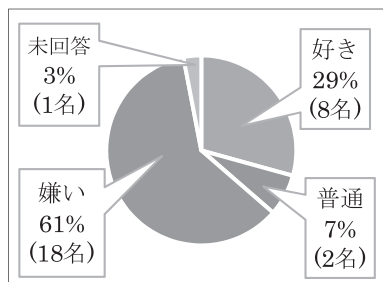


図5-9 ⑨人前で歌うのは好きか(1回目)

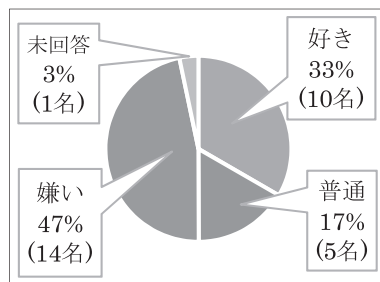


図5-10 ⑨人前で歌うのは好きか(9回目)

「ピアノを弾くことは好きですか」(図5-1、5-2)について、「好き」69%→57%に減少し「普通」10%→23%に増加したが、それぞれ3名の減少・4名の増加であり、練習を重ね、難易度が高くなった結果、先に述べた②「音楽が好きか」という設問と同様(4・2)、「好き」が「普通」に変化した可能性もある。「嫌い」「未回答」はほぼ横這いの結果となった。これらの結果から、リトミックを体験してもピアノを弾くことが「好き」に直接繋がるわけではなく、ピアノを弾くことは短期間で好きにはならないと分析できよう。

「弾き歌いは好きですか」(図5-3、5-4)について「好き」10%→16%と「普通」21%→27%が増加して「嫌い」69%→50%に減少している。これは、5回目以降の授業において歌いながら手拍子・手遊びなどを行う身体表現の実践練習によって(表3)、「弾き歌い」という同時に複数の表現を実践しなければならない活動への苦手意識が減少したと考えられる。

ただし、弾き歌いに対して「嫌い」が19%減少したとはいえ、9回目でも「嫌い」と回答した学生は、全体の半数(50%、15名)を占めている。従って、潜在的に2種類以上の表現を同時に行うことへの苦手意識を持っている学生が半数いることが分析できる。これら苦手意識を持つ学生は、授業時に「弾き歌いは無理」と答えるピアノ初心者である可能性が高い。ピアノ初心者は、演奏すなわち指を動かすことに集中するため「弾きながら歌うなんて絶対無理」「同時に違うことをするのは無理」と答えがちである。従って今後、ピアノ初心者と弾き歌いの相関関係に配慮した設問や調査を行うことを課題としたい。同時に、本授業における5回目以降の「拍子に合わせた表現」は(表3)、鍵盤上で拍子に合わせた指の表現をすると同時に歌唱表現を行う「弾き歌い」と関連性が高いため、今後もリトミックの基本内容を充実させ、弾き歌いの技術向上につなげる実践型授業を展開したい。

「譜読みは早いですか」(図5-5、図5-6)については、「遅い」と回答した学生が7名(80%→54%)減少し、「未回答」が3名(0%→10%)増加した。「遅い」が26%も減少したことは、並行して開講されるピアノ実技「音楽Ⅲ」(表1)の受講も関係すると思われる。

「歌うことは好きですか」(図5-7、図5-8)については、「嫌い」が2名(21%→13%)減少した。減少した2名は、2度目のアンケートでは「普通」と「未回答」に移動したと分析で

きる。その一方で、授業回数を重ねても7割（22名）の学生が「歌うことは好き」と答え
おり、短期授業では嗜好が変わらなかったことがうかがえる。

「人前で歌うことは好きですか」（図5-9、図5-10）については、「嫌い」が4名（61%→47%）減少したものの、授業を重ねても約半数（47%）を占める結果となった。先ほど記した歌唱に関する嗜好結果（図5-8）と勘案すると「歌うことは好きだが、人前で歌うことは苦手である」という学生が約2割（7名）存在すると推測できる。よって、保育者は子どもの前で歌唱表現・指導をする立場であることを十分に理解し、実践的な授業を展開する必要があることを示唆している。

4・5 アンケート「リトミックの表現力に関わる分野」の結果と分析

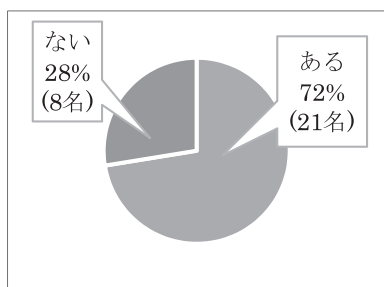


図6-1 ⑩好きな曲、音楽はあるか(1回目)

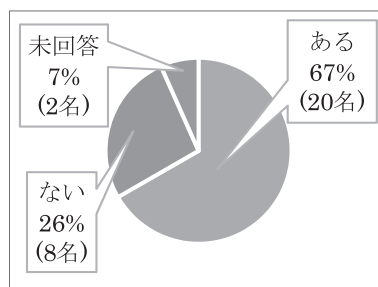


図6-2 ⑩好きな曲、音楽はあるか(9回目)

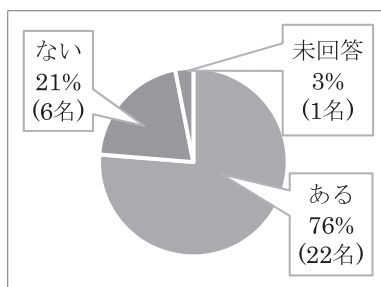


図6-3 ⑪趣味、得意なスポーツはあるか(1回目)

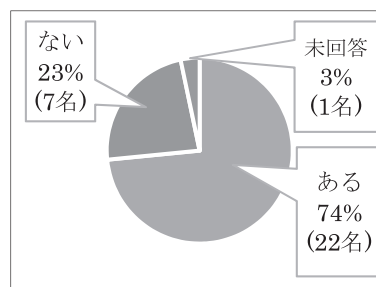


図6-4 ⑪趣味、得意なスポーツはあるか(9回目)

「好きな曲、音楽はありますか」（図6-1、図6-2）に対しては、「ある」と答えた学生は21名→20名（72%→67%）であり、ほぼ横這いだった。口頭で「どんなジャンルの音楽が好きか」と質問したところ、Jポップ、Kポップ、アニメソングといった流行曲が占め、クラシックや童謡唱歌と答える学生はいなかった。その反面、「ない」と答えた学生は、「音楽は聴かない」「好きなアーティストがないから聴かない」「興味がない」など普段から音楽そのものに親しんでいない様子が見えられた。保育者として、日頃から音楽に対する興味・関心を深めることが必要であることを今後の授業時においても強調したい。

「趣味、得意なスポーツはありますか」(図 6-3、図 6-4) について「ある」と回答した学生は 22 名 (76%→74%) で横這いだった。口頭で内容を聞いたところ「中学高校時代の部活動」が最も多く、部活動の経験を生かして現在、地域の運動チームに所属する学生もいた。従って、約 7 割の学生の嗜好が中学高校時代の経験に左右されていることが考えられる。

「ない」と答えた約 2 割 (7 名) の学生に対して理由を口頭で尋ねると、「人混みが嫌い」「集団行動が苦手」「面倒くさい」「自宅でひとり、ゲームをする方が楽しだ楽しい」と返答した。

今日の保育現場では「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く」ことが求められている⁷⁾。従って、授業時においても実践的な協働意識を高めることが必要だと考えられる。

4・6 アンケート「リトミックの基本に関する分野」の結果と分析

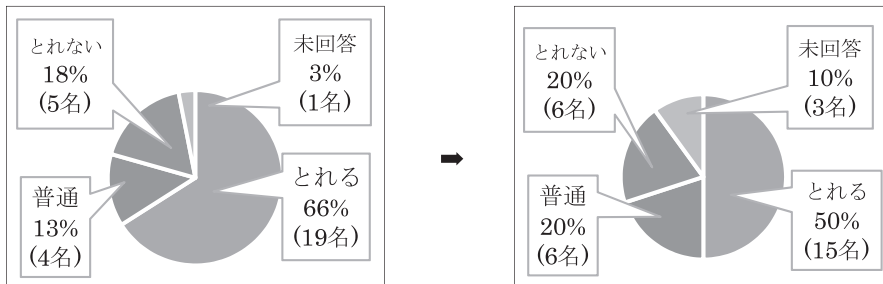


図 7-1 ⑫身体を使ってリズムがとれるか(1回目) 図 7-2 ⑫身体を使ってリズムがとれるか(9回目)

「身体を使ってリズムがとれますか」(図 7-1、7-2) について、「とれる」が 4 名 (66%→50%) 減少している。これは、先に述べたアンケート結果「②音楽は好きか」(図 3-3、3-4、4・2) における「嫌い」の増加とも関連すると考えられる。つまり、音楽全般に対する嗜好変化と同様、中根 (2015)⁶⁾ による保育者研修に対する分析「難易度が高くなるにつれて自己評価値が下がった」ことが要因と指摘できる。8 回分のリトミック実践授業を通じて、リズムが「普通にとれる」と評価していた学生は「難しい」「とれない」という評価に変化したことが原因と考えられる。また「とれる」の減少の要因として、9 回目授業「リズム・パターン」(7 回目授業の復習、表 3) とアンケート調査の実施日が同日であったことが挙げられる。

筆者の目視では、約半数の学生が、8 つのリズムパターンの内 (3・1)、後半 4 パターンの実践が困難であった。そのため、苦手意識を持つ学生にとって「同じ表現が 2 回とも出来なかった」という実践結果は、自身の評価を下げる原因になったと考えられる。4 回目授業時の表現「耳で聞いて声に出して手拍子をする」は全員が可能だったが、5 回目・6 回目の授業から開始した複数の身体表現を同時に行うことに対し約半数が戸惑い始めた (表 3)。従って今後、複数の身体表現を同時に行うという活動に対して、授業内容の見直しが必要であると考えられる。

4・7 アンケート「達成感に関する分野」の結果と分析

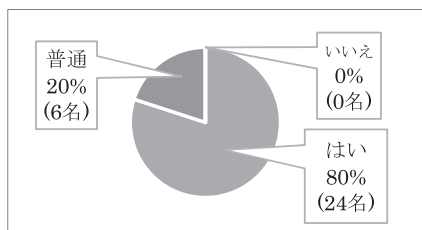


図8-1 ⑬音楽が好きになったか

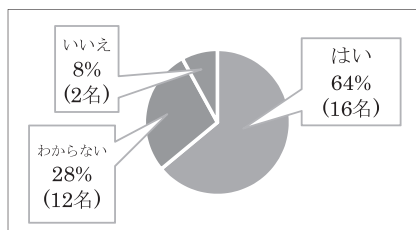


図8-2 ⑭自分の成長を感じたか

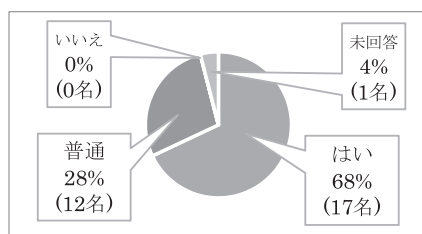


図8-3 ⑮ピアノや歌に意欲がわいたか

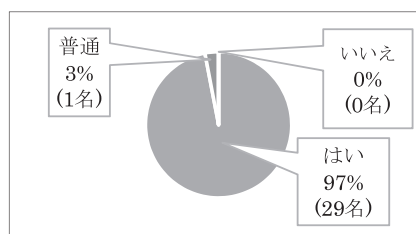


図8-4 ⑯保育者になるにはこの授業は大切か

9回目授業のアンケートにおける初回時からの追加事項（4項目）の調査結果である（図8-1～8-4）。

「1回目の授業より音楽が好きになれましたか」（図8-1）について「はい」は24名（80%）であり、「いいえ」0%であった。「いいえ」と回答した学生が全くいなかったことは、短期間ではあったが、本授業における実践的な試みが功を奏したと考えられる。同時に「2か月授業を受けて自身の成長を感じることができましたか」（図8-2）についての回答は、「はい」16名（64%）、「いいえ」2名（8%）であった。自分の成長を約6割の学生が実感できたことは、「音楽が好きになれた」要因の一つと分析できる。従って、自己の成長を実感し、成功体験を増やす実践的な授業を増やす必要があろう。

「この授業を通してピアノや歌などに意欲がわきましたか」（図8-3）について「はい」は17名（68%）であり、「いいえ」と答えた学生はいなかった（0人、0%）。この数値は、先に述べた「自身の成長を感じることができましたか」という設問の回答者割合とほぼ等しい。従って、6割以上の学生が、2か月という短期間ではあるもののリトミックを学んだことによって、音楽領域全般に対する関心や意欲が高まったことが分析できる。

アンケート最後の設問にあたる「保育者になるためにこの授業は大切だと感じましたか」（図8-4）については、「はい」が29名（97%）で、「いいえ」は全くいなかった（0名、0%）。先にふれた「身体を使ってリズムがとれますか」（図7-1、7-2）という設問では、「とれる」が4名分（66%→50%）減少したため、リトミックに対する苦手意識が高まり、授業への重要度も低くなることが予想された。

しかし、学生はリズムを取ることに對する困難を感じても、リトミックの指導内容・実践方法を習得し、現場で生かすことは必要であるという意識が芽生えたことが分析できる。このアンケートで自由記述欄を設けたところ 20 名 (67%) が記述しており (表 5)、保育現場におけるリトミックの必要性を実感していることが分かる。

表 5 「保育者になるためにこの授業は大切だと感じましたか」学生自由記述一覧

カテゴリー	理 由 (学生の自由記述)
子どもを主体とした感想	音楽で子どもが元気になると感じた。
	園児にリズム遊びを教えてリズム感を養うことができる。
	子どもの興味を様々なところへ向かせることができる。
	子どもたちが音楽を通じてコミュニケーションを取る事が楽しいと感じてもらえる。
	子どもに音楽の楽しさを知ってもらうため。
	幼児期にリトミックをすると良いことが分かった。また幼児期に関わらずリズムを取ることは大切だと気付いた。
	子どもの喜ぶ音楽やリズムに取り組める。
	子どもたちにやってみてほしいと思った。
保育者を主体とした感想	ただ歌うだけではなく身体でリズムをとり身体で音楽を表現する事が大切だと思った。
	自分が子どもとする際にリズムに合わせて身体を動かすやり方がこの授業で知れた。
	リズムを取ることで子どもと一緒に楽しめる。
	みんなの前で身体を動かしたり発表したりして色々な経験ができた。
	手本にならないといけなから練習になる。
	子どもを喜ばせることはこういう事だと先生を見て感じた。
	子どもが喜ぶためにはどのような接し方が大切か、楽しさを伝えられるかが大切。
	実習で使うことができる事が増えた。
	ためになったと感じた。
	音楽の関わり方を学べた。
	音楽をどう伝えるか、入り口をどうするかを考えることができた。
	身近な動作リズムを取る事、音楽を楽しんでいることを伝えたい。

学生の記述を概観すると「子どもを主体とした感想」「保育者を主体とした感想」の2つのカテゴリーに分類することができる (表 5)。従って、子どもの成長だけでなく、保育者の技術向上としてもリトミックが必要と感じていることが分かる。また、「リズム」という言葉が最多で使用されており (7名)、リトミックの構成要素である「リズム」を取ることの重要性を理解していることが分析できる。それに対して「身体で表現する」(動作する) という記述は、「保育者を主体とした感想」のカテゴリーのみに対してしか得られなかった (4名)。そのため、「子どもの表現」が主体であることの認識が欠けていると分析できる。従って、保育者としての表現技術の向上だけでなく、子どもに対する配慮・指導・援助を意識できるような授業を展開する必要があることが分かった。

5 おわりに —今回のアンケート結果と今後の課題について—

本稿では、2度のアンケート調査と分析（5つのカテゴリー「リトミックに直接関わる分野」「リトミックに関連する分野」「リトックの音楽領域に関する分野」「リトミックの表現力に関わる分野」「リトミックの基本に関する分野」）について述べた。

筆者は、本アンケートの企画にあたり、ピアノ実技授業（「音楽Ⅲ」、表1）を担当していることにちなみ「リトミックの実践体験を通じてピアノ演奏が好きになってもらいたい」と意図していた。ところが、リトミックを実践しても2か月という短期間では「ピアノ演奏が好き」という意識への好転はみられなかった。

その原因の一つとして、譜読みへの苦手意識が挙げられる（図5-5、図5-6）。筆者は「譜読みは、音楽表現における基礎的技術の一つであり、音符とリズムを理解し鍵盤上で確認しながら弾く作業は、リトミック授業と共に技術が向上する」と予想したが（3章）、「（譜読みが遅い）」が2か月で減少したものの過半数の学生が「遅い」（16名、54%）と答えているためである。一定の効果を得られたものの、学生の約半数を占めるピアノ初心者には譜読みが困難であることと関連するため、リズム・パターンへの苦手意識が高ずることも分析できた（4・4）。従って、初心者には譜読みに対する指導時間を増やし、わかりやすい授業展開に配慮する必要がある。

今回のアンケート実施・分析を通じて、以下の3つを強調したい。

1つ目は、潜在的に「2つ以上の同時作業・表現が困難」と感じる学生が約半数を占めることが分かったことである。それは「弾き歌い」という2つ以上の作業・表現が困難な学生が約半数を占めることから分析できる（図5-3,5-4）。今回のリトミック授業では、5回目以降から複数の表現を同時に行う作業が増えたと同時に、8つのリズム・パターンの実施によりリトミックの難易度が上がった（表3）。この授業過程は、「⑩身体を使ってリズムがとれるか」（図7-1）に対する「とれる」という回答の減少（19名→15名、16%減少）に繋がった。

更に弾き歌いに対して「嫌い」が5名減少したこと（図5-3、5-4）について述べると、同期に開講している「音楽Ⅱ」（表1）授業では、伴奏譜が初級・中級・上級の3種類のレベルに分けてあり、各自で自覚した進度に応じて授業内容を選択出来るようになっている。「音楽Ⅱ」では、個々のレベルに合った練習ができるため、充実感・達成感・成功体験が味わいやすいことが考えられる。従って今後、リトミックにおいても苦手意識の克服を重視し、学生のレベルに応じた対応を考えたい。また、授業の進度に配慮した基本のリズム・パターン（8つ）を1回の授業全てを行うのではなく、毎回の授業で少しずつ増加させ、毎時の授業での復習を行うことを試みたい。

2つ目は、先行研究でも指摘があったように⁶⁾、保育学生においても実践体験の難易度が高くなるにつれ、自己評価が下がることが確認できたことである(図7-1、7-2)。「達成感に関する分野」(4・7)のアンケート結果で「⑭自分の成長を感じた」学生(16名)は(図8-2)、「⑫身体を使ってリズムがとれる」と答えた学生(15名)とほぼ同数であることから、リズムがとれる学生は自己の成長を実感している可能性が指摘できる。従って、リズム表現・リトミックを含めた音楽表現が困難と感じる学生に対する特別な配慮が必要であることが確認できた。

3つ目は、リトミックという実践的授業においても目的の明確化が必要ということである。学生は今回の授業を通じて「保育者を主体とした感想」を持つことはできたが、「子どもを主体とした感想」に対する記述は少なかったことから(表5)、「保育現場では子どもの表現が主体」であることの認識が欠けていると分析できた(4・7)。つまり自分・保育者本位ではなく、子ども達が主体であり、協働意識を高めることが必要であると考えられる。そのため今後、保育者としての表現技術向上だけでなく、子どもに対する配慮・指導・援助を意識できるような授業を展開することを重視したい。

謝辞

本稿の作成するにあたり御教示下さいました本学一般教育科准教授高杉志緒先生、保育学科教員各位に深く感謝の意を表します。

引用・参考文献

- 1) 神原雅之監修：「1歳から5歳のかんたんリトミック」, ナツメ社, p.16, 2013.
なお、本授業を行うにあたり、以下の書を参考に実践している。
・日名子紀代編曲：「なかよしあそびうた～ほいくえん・ようちえんでうたう歌～」, ドレミ楽譜出版社, 26pp. 2006.
- 2) 鈴木恵津子：保育学生に求められる「豊かな感性」とリトミック教育の可能性, 日本体育学会大会発表論文集, 57, pp.198-199, (2004)
- 3) 内山尚美・森野かおり：保育者・教員養成校におけるリトミックの活用性についての試案, 東海学院大学短期大学部紀要, 41号, pp.97-108, (2015)
- 4) 中根佳江：保育者の表現力の変容が及ぼす子どもの音楽的表現力への影響ーリトミックを通しての考察ー, 大阪総合体育大学紀要, 9号, pp.90-92, (2015).
- 5) 岩崎光弘：「リトミックってなあに」, ドレミ楽譜出版社, 1993.
- 6) 中根佳江：保育者の表現力の変容が及ぼす子どもの音楽的表現力への影響ーリトミックを通しての考察ー, 大阪総合体育大学紀要, 9号, p.94, (2015).
- 7) 文部科学省：幼稚園教育要領 前文 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉」, チャイルド本社, p5, 2017